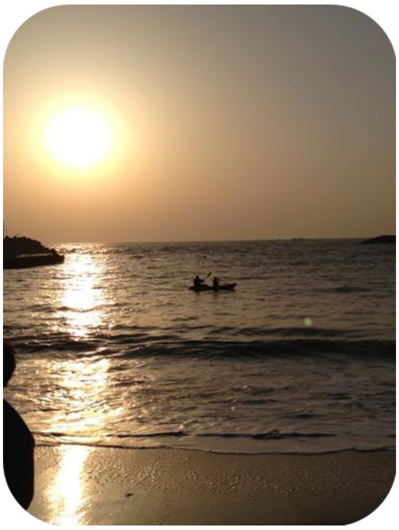
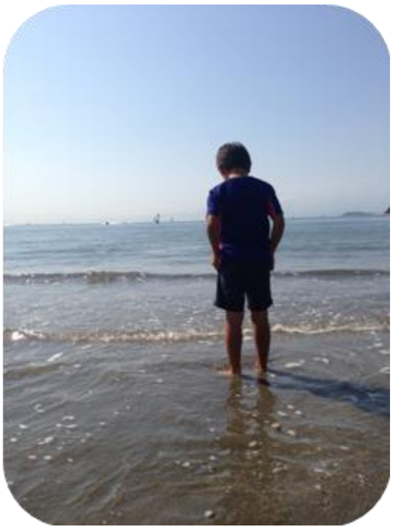
平成27年６月３日
総合戦略推進会議
資料３

横須賀市都市イメージ創造発信アクションプラン

～結婚・子育て世代から「住むまち」として選ばれるために～

＜抜粋＞





横須賀市政策推進部

第１章 人口から捉える横須賀の現状

これまでの人口の推移や今後の人口予測、自然増減や社会増減の特徴などから、現状を分析しました。

１ これまでの人口の推移

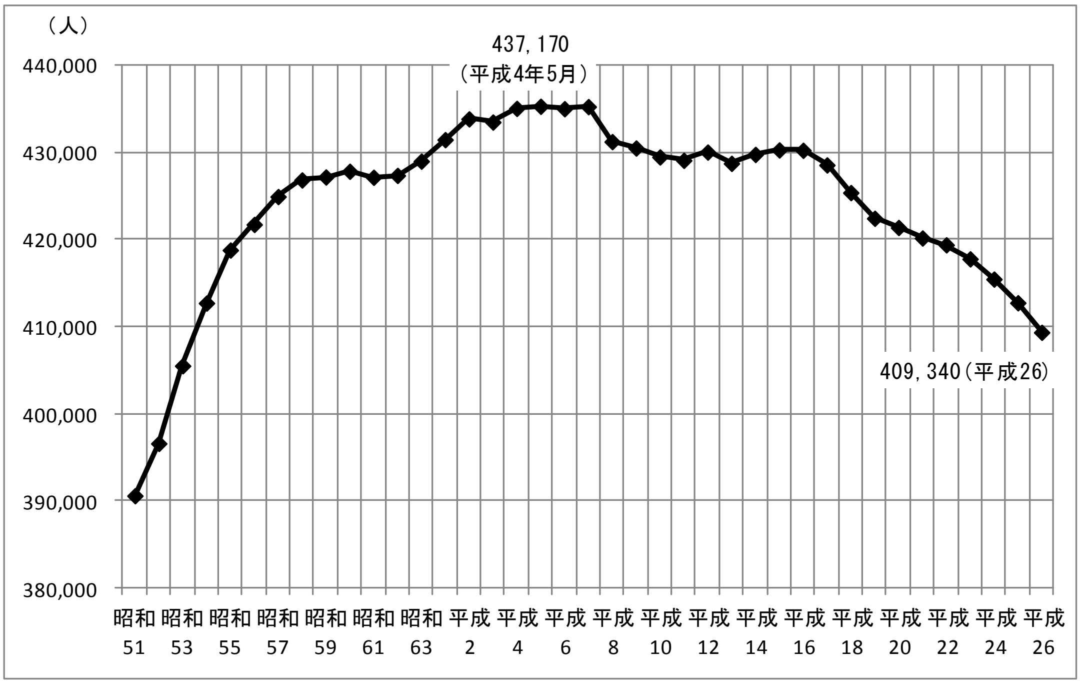
１　総人口

○ 本市の人口は減少傾向にある

本市の人口は、昭和 50 年代前半まで急激な上昇を示し、昭和 52 年に 40 万人を突破しましたが、平成５年頃をピーク（過去最高は平成４年５月の 43 万 7,170 人）に、その後、徐々に減少しています。

平成 24 年４月には、藤沢市に抜かれ県内５位となり、平成 26 年１月では、40 万 9,340 人となっています。（図表 1）

図表 1　本市の人口の推移（昭和 51 年～平成 26 年）



横須賀市統計書から作成（推計人口　各年１月１日現在）

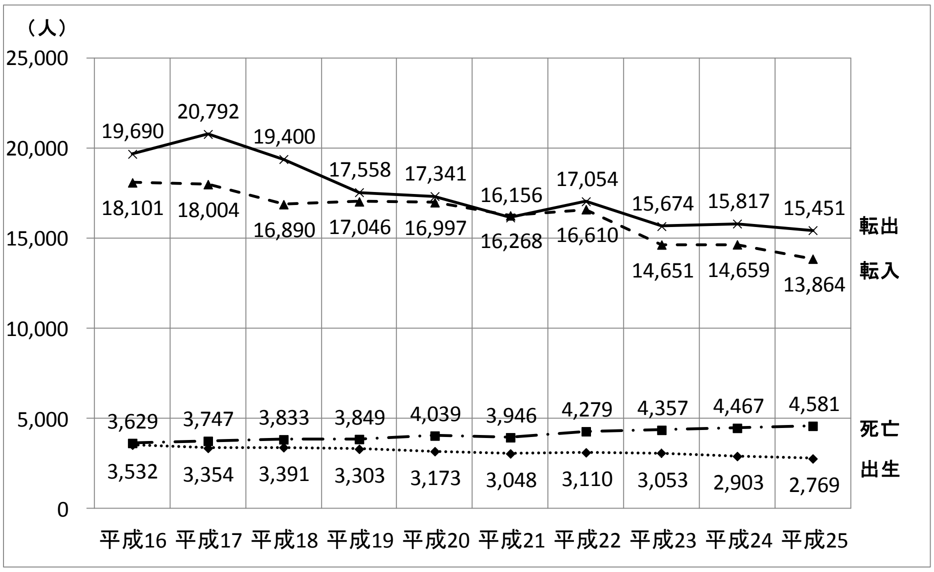
２　自然増減・社会増減（人口動態）

○ 自然増減・社会増減ともに減少傾向にある
○ 自然減が社会減より進んでいる
○ 社会減数が全国最多である
○ 県内他市と比較すると、転入者の割合が少ない

過去 10 年の本市の人口動態の推移をみると、自然動態では出生よりも死亡が多く、出生は減少、死亡は増加し続けています。社会動態では転入よりも転出が多く転出超過となっています。また、人口移動の規模そのものが縮小しています。

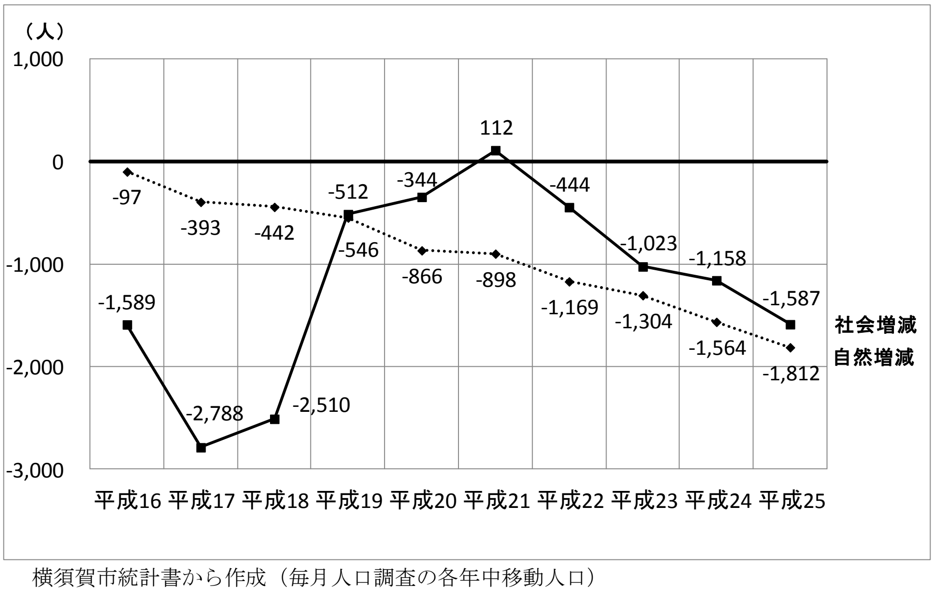
死亡が出生を上回る自然減、転出が転入を上回る社会減がともに進んでいますが、自然減が社会減よりも進んでいます。（図表 2、図表 3）

図表 2　人口動態の推移（横須賀市）



横須賀市統計書から作成（毎月人口調査の各年中移動人口）

図表 3　自然増減と社会増減の推移（横須賀市）



横須賀市統計書から作成（毎月人口調査の各年中移動人口）

また、平成 26 年 1 月に発表された総務省の「住民基本台帳人口移動報告」で、本市の平成 25 年の社会減は、全国の市町村で最も多いという事実が明らかになりました。

この報告は、社会減の状況を実人数で比較しており、人口の多い都市ほど上位となる傾向にありますが、これを人口に占める割合で比較してみても、神奈川県内で、横浜市栄区、三浦市、横浜市金沢区に次いで、4位という深刻な状況になっています。（図表 4）

図表 4　平成 25 年中の社会増減数（転入者－転出者）

市区	人口（人）	社会増減数			
		社会増減数（人）	順位	人口に占める割合（%）	順位
横須賀市	**409,340**	**▲ 1,772**	**1位**	**▲ 0.4**	**4位**
横浜市金沢区	204,453	▲ 955	2位	▲ 0.5	3位
横浜市港南区	217,782	▲ 813	3位	▲ 0.4	5位
平塚市	258,076	▲ 763	4位	▲ 0.3	8位
横浜市栄区	123,176	▲ 688	5位	▲ 0.6	1位
横浜市旭区	248,560	▲ 656	6位	▲ 0.3	9位
相模原市緑区	176,432	▲ 611	7位	▲ 0.3	6位
横浜市泉区	154,807	▲ 401	8位	▲ 0.3	10位
座間市	129,548	▲ 289	9位	▲ 0.2	11位
秦野市	169,326	▲ 272	10位	▲ 0.2	14位
三浦市	46,283	▲ 247	11位	▲ 0.5	2位
横浜市瀬谷区	125,599	▲ 240	12位	▲ 0.2	13位
伊勢原市	100,850	▲ 213	13位	▲ 0.2	12位
南足柄市	43,566	▲ 136	14位	▲ 0.3	7位
川崎市多摩区	213,419	▲ 90	15位	▲ 0.0	15位
小田原市	195,958	▲ 28	16位	▲ 0.0	16位
横浜市戸塚区	273,962	▲ 16	17位	▲ 0.0	17位
横浜市青葉区	307,844	18	18位	0.0	18位
厚木市	225,020	28	19位	0.0	19位
逗子市	57,868	95	20位	0.2	26位
横浜市保土ケ谷区	204,290	115	21位	0.1	20位
綾瀬市	83,903	129	22位	0.2	25位
横浜市緑区	178,783	193	23位	0.1	21位
鎌倉市	173,448	207	24位	0.1	23位
横浜市南区	194,393	230	25位	0.1	22位
川崎市宮前区	223,476	327	26位	0.1	24位
川崎市高津区	222,923	392	27位	0.2	27位
横浜市中区	147,065	504	28位	0.3	33位
海老名市	129,191	508	29位	0.4	37位
横浜市磯子区	161,968	523	30位	0.3	31位
横浜市西区	97,251	525	31位	0.5	40位
相模原市中央区	268,135	595	32位	0.2	28位
川崎市幸区	157,418	601	33位	0.4	36位
茅ヶ崎市	237,418	672	34位	0.3	29位
横浜市神奈川区	234,496	756	35位	0.3	30位
大和市	232,236	837	36位	0.4	34位
川崎市麻生区	173,720	862	37位	0.5	39位
相模原市南区	276,588	920	38位	0.3	32位
横浜市都筑区	209,626	953	39位	0.5	38位
藤沢市	418,417	1,511	40位	0.4	35位
川崎市川崎区	218,445	1,907	41位	0.9	42位
横浜市鶴見区	280,234	2,575	42位	0.9	43位
横浜市港北区	338,969	2,736	43位	0.8	41位
川崎市中原区	240,696	2,930	44位	1.2	44位
（再掲）					
横浜市	3,703,258	5,359		0.1	
川崎市	1,450,097	6,929		0.5	
相模原市	721,155	904		0.1	

社会増減数は平成 25 年中の移動　住民基本台帳人口移動報告平成 25 年結果から作成
人口は平成 26 年 1 月 1 日現在　神奈川県人口統計調査結果「神奈川県の人口と世帯」から作成
順位は神奈川県内 44 市区中　　社会増減数の「▲」は社会減を表す

また、人口に占める転出者数および転入者数の割合を県内で比較してみると、転出者数の割合は37位（８番目に低い）で県内他市区に比べて高くはありませんが、転入者数の割合は６位と県内他市区に比べて低い状況にあります。（図表 5）

図表 5　平成25年中の転出者数と転入者数（社会増減数の内訳）

転出者数・転入者数ともに、社会減に影響を与える順に表示（上位ほど影響を与える）
転出者：社会増減の**減少**に影響を与える　⇒　多い順（人口に占める割合の高い順）に表示
転入者：社会増減の**増加**に影響を与える　⇒　少ない順（人口に占める割合の低い順）に表示

転出者数

市区	人口（人）	転出		
		転出者数（人）	順位（高い順）	**人口に占める割合（％）**
川崎市中原区	240,696	16,800	1位	7.0
横浜市西区	97,251	6,608	2位	6.8
川崎市高津区	222,923	14,506	3位	6.5
川崎市多摩区	213,419	13,176	4位	6.2
横浜市神奈川区	234,496	14,101	5位	6.0
横浜市中区	147,065	8,712	6位	5.9
横浜市港北区	338,969	19,793	7位	5.8
川崎市宮前区	223,476	12,088	8位	5.4
川崎市幸区	157,418	8,246	9位	5.2
横浜市栄区	123,176	6,431	10位	5.2
横浜市青葉区	307,844	16,069	11位	5.2
横浜市南区	194,393	10,038	12位	5.2
横浜市都筑区	209,626	10,321	13位	4.9
川崎市麻生区	173,720	8,518	14位	4.9
横浜市緑区	178,783	8,660	15位	4.8
横浜市鶴見区	280,234	13,156	16位	4.7
横浜市保土ケ谷区	204,290	9,553	17位	4.7
横浜市磯子区	161,968	7,567	18位	4.7
川崎市川崎区	218,445	10,122	19位	4.6
座間市	129,548	5,830	20位	4.5
横浜市港南区	217,782	9,732	21位	4.5
横浜市戸塚区	273,962	12,039	22位	4.4
相模原市南区	276,588	11,969	23位	4.3
大和市	232,236	9,802	24位	4.2
横浜市金沢区	204,453	8,465	25位	4.1
伊勢原市	100,850	4,164	26位	4.1
横浜市瀬谷区	125,599	5,176	27位	4.1
相模原市中央区	268,135	10,697	28位	4.0
横浜市泉区	154,807	6,154	29位	4.0
綾瀬市	83,903	3,318	30位	4.0
横浜市旭区	248,560	9,798	31位	3.9
相模原市緑区	176,432	6,919	32位	3.9
海老名市	129,191	4,946	33位	3.8
厚木市	225,020	8,543	34位	3.8
鎌倉市	173,448	6,552	35位	3.8
藤沢市	418,417	14,962	36位	3.6
横須賀市	**409,340**	**14,322**	**37位**	**3.5**
逗子市	57,868	1,967	38位	3.4
南足柄市	43,566	1,428	39位	3.3
茅ヶ崎市	237,418	7,494	40位	3.2
秦野市	169,326	5,206	41位	3.1
平塚市	258,076	7,787	42位	3.0
小田原市	195,958	5,891	43位	3.0
三浦市	46,283	1,371	44位	3.0
（再掲）				
横浜市	3,703,258	182,373		4.9
川崎市	1,450,097	83,456		5.8
相模原市	721,155	29,585		4.1

転入者数

市区	人口（人）	転入		
		転入者数（人）	順位（低い順）	**人口に占める割合（％）**
三浦市	46,283	1,124	1位	2.4
平塚市	258,076	7,024	2位	2.7
秦野市	169,326	4,934	3位	2.9
南足柄市	43,566	1,292	4位	3.0
小田原市	195,958	5,863	5位	3.0
横須賀市	**409,340**	**12,550**	**6位**	**3.1**
茅ヶ崎市	237,418	8,166	7位	3.4
逗子市	57,868	2,062	8位	3.6
相模原市緑区	176,432	6,308	9位	3.6
横浜市金沢区	204,453	7,510	10位	3.7
横浜市旭区	248,560	9,142	11位	3.7
横浜市泉区	154,807	5,753	12位	3.7
厚木市	225,020	8,571	13位	3.8
鎌倉市	173,448	6,759	14位	3.9
伊勢原市	100,850	3,951	15位	3.9
横浜市瀬谷区	125,599	4,936	16位	3.9
藤沢市	418,417	16,473	17位	3.9
横浜市港南区	217,782	8,919	18位	4.1
綾瀬市	83,903	3,447	19位	4.1
相模原市中央区	268,135	11,292	20位	4.2
海老名市	129,191	5,454	21位	4.2
座間市	129,548	5,541	22位	4.3
横浜市戸塚区	273,962	12,023	23位	4.4
大和市	232,236	10,639	24位	4.6
相模原市南区	276,588	12,889	25位	4.7
横浜市栄区	123,176	5,743	26位	4.7
横浜市保土ケ谷区	204,290	9,668	27位	4.7
横浜市緑区	178,783	8,853	28位	5.0
横浜市磯子区	161,968	8,090	29位	5.0
横浜市青葉区	307,844	16,087	30位	5.2
横浜市南区	194,393	10,268	31位	5.3
横浜市都筑区	209,626	11,274	32位	5.4
川崎市麻生区	173,720	9,380	33位	5.4
川崎市川崎区	218,445	12,029	34位	5.5
川崎市宮前区	223,476	12,415	35位	5.6
横浜市鶴見区	280,234	15,731	36位	5.6
川崎市幸区	157,418	8,847	37位	5.6
川崎市多摩区	213,419	13,086	38位	6.1
横浜市中区	147,065	9,216	39位	6.3
横浜市神奈川区	234,496	14,857	40位	6.3
横浜市港北区	338,969	22,529	41位	6.6
川崎市高津区	222,923	14,898	42位	6.7
横浜市西区	97,251	7,133	43位	7.3
川崎市中原区	240,696	19,730	44位	8.2
（再掲）				
横浜市	3,703,258	187,732		5.1
川崎市	1,450,097	90,385		6.2
相模原市	721,155	30,489		4.2

転入者数・転出者数は平成25年中の移動　住民基本台帳人口移動報告平成25年結果から作成
人口は平成26年1月1日現在　神奈川県人口統計調査結果「神奈川県の人口と世帯」から作成
順位は神奈川県内44市区中

４ 社会増減の特徴

１　転入・転出の移動圏域

○ 転入・転出ともに近隣および鉄道沿線上の市区町村への移動が多い
○ 転入圏域が狭い

本市への転入・転出は、ともに、横浜市（南部）、三浦市、逗子市、葉山町などの近隣市町や藤沢市との移動が上位を占めています。

また、京浜急行線とＪＲ横須賀線の鉄道沿線上の市区町への移動が多くなっています。（図表 20）

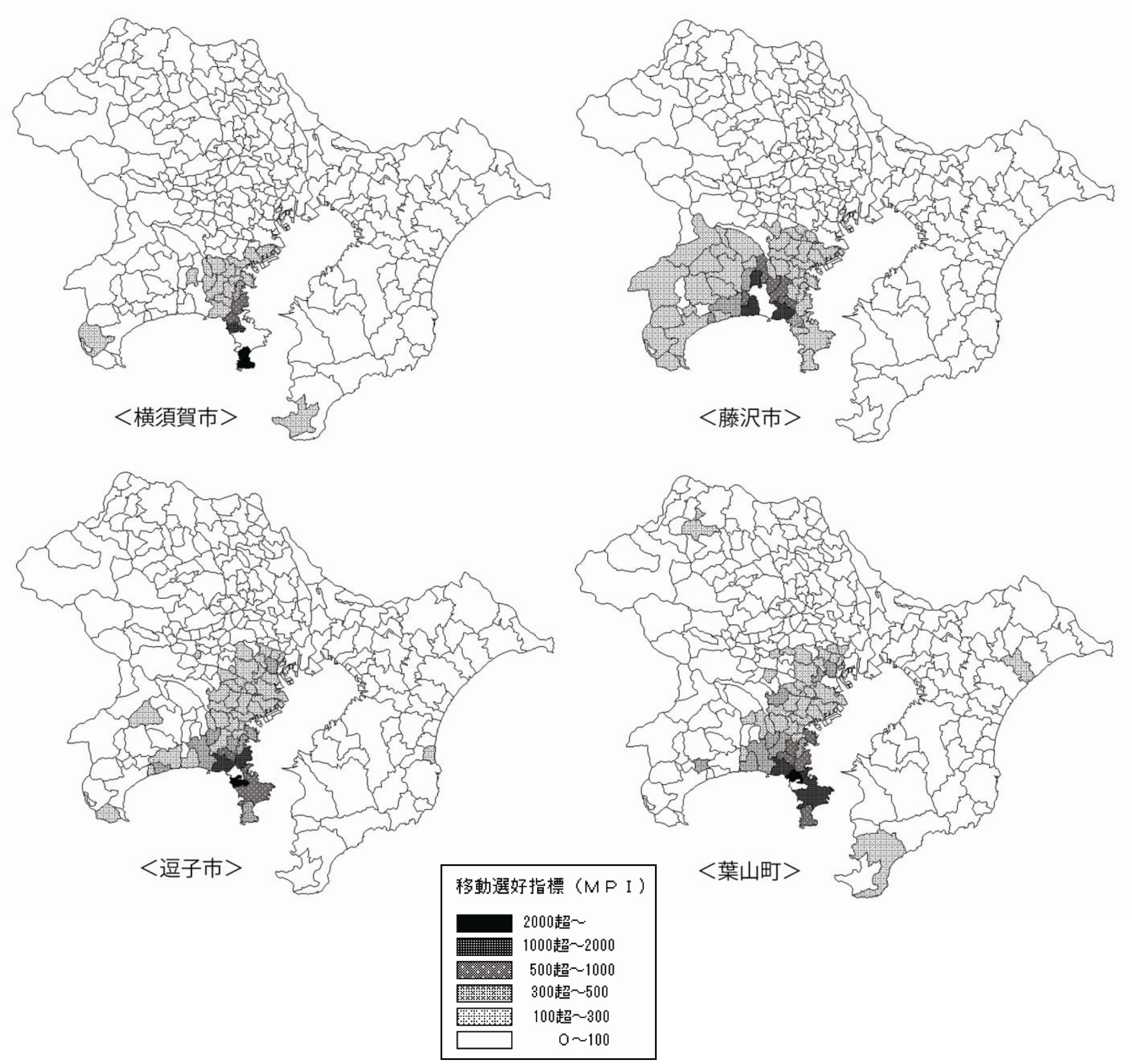
図表 20　転入元・転出先市区町村別人口移動数（上位 10 位　平成 22 年国勢調査）

転入				順位	転出			
5年前には他の市区町村に居住していたが、調査時には横須賀市に居住している人					5年前には横須賀市に居住していたが、調査時には他の市区町村に居住している人			
総数：26,988人					総数：34,670人			
転入元（市区町村）	移動数（人）	移動総数（転入）に対する割合	備考		転出先（市区町村）	移動数（人）	移動総数（転出）に対する割合	備考
横浜市金沢区	2,197	8.1%	京急線	1	横浜市金沢区	2,555	7.4%	京急線
三浦市	1,773	6.6%	京急線	2	三浦市	1,539	4.4%	京急線
横浜市港南区	687	2.5%	京急線	3	横浜市港南区	949	2.7%	京急線
横浜市磯子区	667	2.5%	京急線	4	横浜市南区	786	2.3%	京急線
逗子市	599	2.2%	JR横須賀線	5	横浜市磯子区	684	2.0%	京急線
横浜市南区	572	2.1%	京急線	6	横浜市戸塚区	636	1.8%	JR横須賀線
葉山町	501	1.9%	JR横須賀線	7	逗子市	632	1.8%	JR横須賀線
東京都大田区	426	1.6%	京急線	8	藤沢市	622	1.8%	
藤沢市	402	1.5%		9	葉山町	583	1.7%	JR横須賀線
横浜市戸塚区	389	1.4%	JR横須賀線	10	横浜市神奈川区	516	1.5%	京急線

よこすか白書 2012「横須賀市における人口移動の構造」（横須賀市都市政策研究所）から作成
※平成 22 年国勢調査
※年齢、性別、転出入市区町村名が不詳のもの、現住所が自衛隊施設区域および矯正施設区域のもの、４歳以下人口、国外からの転入を除く。

本市への転入による人口移動は、隣接市町（逗子市・葉山町）や人口が同規模の藤沢市と比較すると、転入の圏域が狭く、人口移動が活発ではない状況となっています。（図表 21）

図表 21　移動選好指標（MPI）[4]による人口移動圏域（転入の圏域）



よこすか白書 2012「横須賀市における人口移動の構造」（横須賀市都市政策研究所）から作成
※平成 22 年国勢調査
※年齢、性別、転出入市区町村名が不詳のもの、現住所が自衛隊施設区域および矯正施設区域のもの、４歳以下人口、国外からの転入を除く。

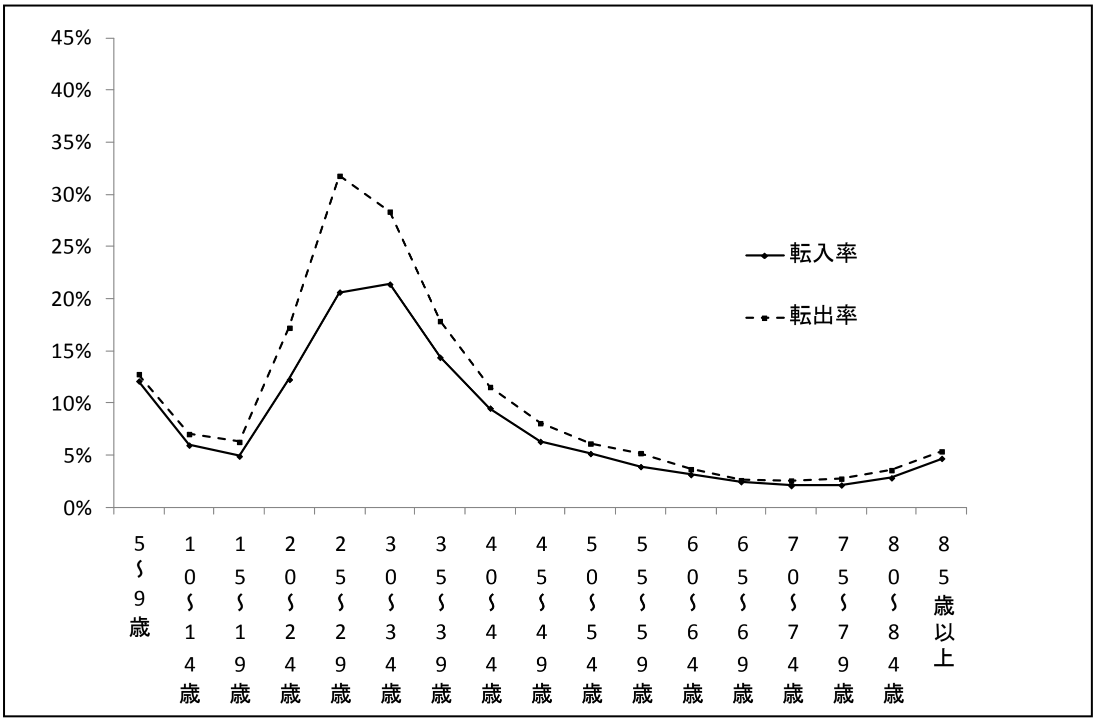
[4]移動選好指標：MPI（Migration Preference Index）とは、該当自治体の人口規模から期待される移動数と実際の移動数を比較した指数のこと。期待移動人口と実際の移動数が等しければ MPI は 100 となり、100 を上回る場合は期待移動人口を超える移動が見られ、100 を下回る場合は移動が期待移動人口に満たないということになる。

２　結婚・子育て世代の転入・転出状況

○ 20 歳代から 30 歳代は転入率・転出率ともに高い、また転出超過率が高い

本市における転入率、転出率は、いずれも 20 歳代から 30 歳代で高くなっています。
また、いずれの年代においても、転出率が転入率を上回る転出超過の状況になっていますが、20 歳代から 30 歳代では、転出率と転入率の差が大きくなっています。（図表 22）

図表 22　転入率・転出率の状況（横須賀市　平成 22 年期）

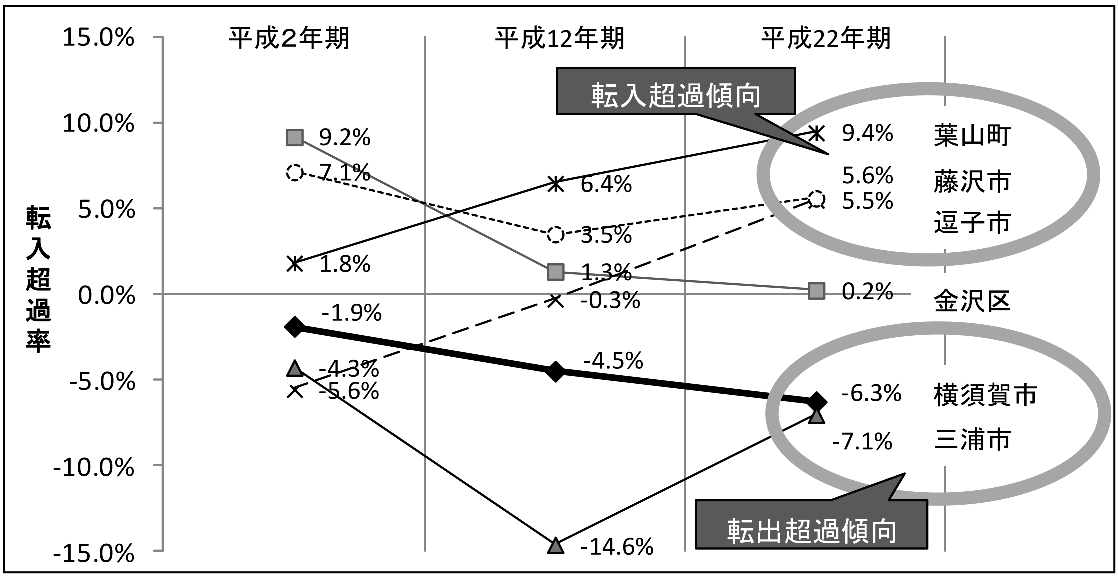


よこすか白書 2012「横須賀市における人口移動の構造」（横須賀市都市政策研究所）から作成
※平成 22 年国勢調査
※年齢、性別、転出入市区町村名が不詳のもの、現住所が自衛隊施設区域および矯正施設区域のもの、４歳以下人口、国外からの転入を除く。
※転入率：（転入者数÷期間末人口）×100
※転出率：（転出者数÷期間末人口）×100

○ 20 歳代から 30 歳代における転出超過の傾向は、他市と比較しても顕著で年々悪化している

また、近隣市町の逗子市・葉山町、藤沢市では 20 歳代から 30 歳代の転入率が転出率を超過している転入超過の状況にある中で、本市の転出超過の傾向は、年々悪化しています。（図表 23）

図表 23　20 歳代〜30 歳代の転入超過率の推移（横須賀市、近隣市町・藤沢市）



よこすか白書 2012「横須賀市における人口移動の構造」（横須賀市都市政策研究所）から作成
※平成 22 年国勢調査
※年齢、性別、転出入市区町村名が不詳のもの、現住所が自衛隊施設区域および矯正施設区域のもの、 4 歳以下人口、国外からの転入を除く。
※20 歳〜39 歳
※転入超過率：（転入者数-転出者数）÷期間末人口×100

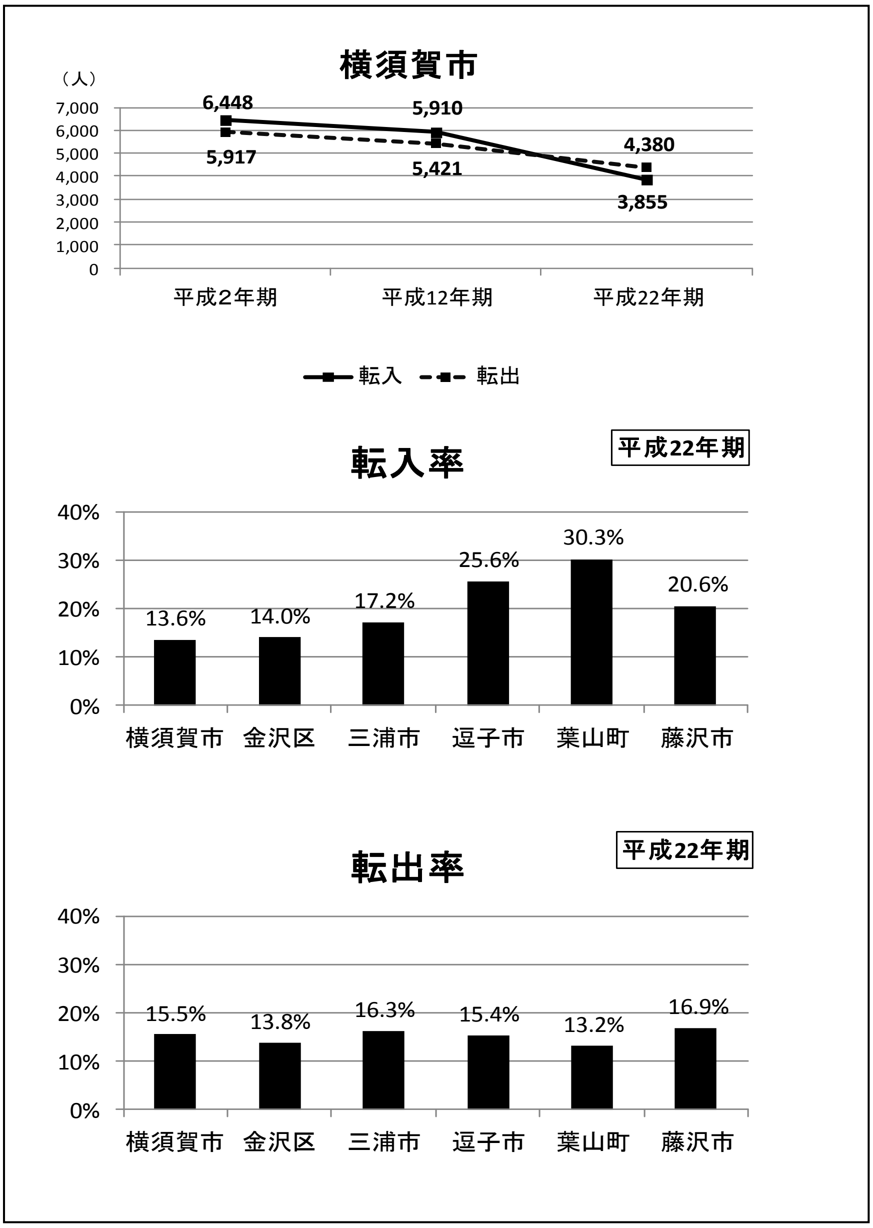
３　子どもを持つ世帯の転入・転出状況

○ 近隣市町と比べ、子どもを持つ世帯の転出率はほぼ同水準だが転入率は極めて低い

次に、子どもを持つ 20 歳代から 40 歳代の世帯主の転入・転出の状況をみると、本市は平成 22 年期から転出超過に転じています。

また、本市は近隣市町と比較すると、転出率は同程度にもかかわらず、転入率が低い状況となっています。（図表 24）

図表 24　子どもを持つ 20 歳代～40 歳代の世帯主の転入・転出の状況



よこすか白書 2012「横須賀市における人口移動の構造」（横須賀市都市政策研究所）から作成
※平成 22 年国勢調査
※年齢、性別、転出入市区町村名が不詳のもの、現住所が自衛隊施設区域および矯正施設区域のもの、４歳以下人口、国外からの転入を除く。
※転入率：（転入者数÷期間末人口）×100
※転出率：（転出者数÷期間末人口）×100

第２章 結婚・子育て世代が捉える「住むまち」としての横須賀の現状

20 歳代から 40 歳代（結婚・子育て世代）が、本市を「住むまち」としてどのように捉えているか、市内・市外に分類し、各種アンケートなどから分析しました。

●横須賀への定住意向に関するアンケート
調査内容：横須賀市、横浜市、逗子市、鎌倉市、三浦市、葉山町、藤沢市に対する居住意向や都市イメージの調査
調査時期：平成 24 年９月
調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に居住する 20 歳代から 40 歳代 18,727 人
調査方法：インターネット調査

●総合計画市民アンケート
調査内容：横須賀市基本計画の進行管理を行うため、本市の魅力や政策・施策などに対する市民の実感を調査
調査時期：平成 25 年１月～２月
調査対象：市内在住の 15 歳以上の市民 2,000 人（回答者 945 人）
調査方法：郵送による発送・回収

●基本計画重点プログラム市民アンケート
調査内容：横須賀市基本計画に重点プログラムとして位置付けた事業を検証するため、取り組みの方向性などに対する市民の実感を調査
調査時期：平成 25 年４月～５月
調査対象：市内在住の 15 歳以上の市民 2,000 人（回答者 732 人）
調査方法：郵送による発送・回収

●ファーストマイホーム応援制度・スイートホーム応援制度利用者アンケート
調査内容：両制度利用者に対する応援制度の評価や横須賀の暮らしについての調査
調査時期：平成 25 年６月～７月
調査対象：両制度利用者 4,994 人（回答者 2,615 人）
調査方法：郵送による発送・回収

●ファーストマイホーム応援制度・スイートホーム応援制度利用者へのインタビュー
調査内容：両制度利用者に対する横須賀の魅力や定住促進の取り組みなどに関するインタビュー
開催時期：平成 25 年７月
開催回数：７回
参加者数：両制度利用者 58 人（１回あたり６人～11 人で開催）

※　ファーストマイホーム応援制度（平成 20 年度～平成 24 年度）
生涯で初めての住宅を市内に取得した結婚・子育て期の世帯に助成金を交付

※　スイートホーム応援制度（平成 20 年度～平成 24 年度）
結婚を機会に市内に民間賃貸住宅を借りる新婚世帯に、交付決定の翌月から６カ月間居住後に奨励金を交付

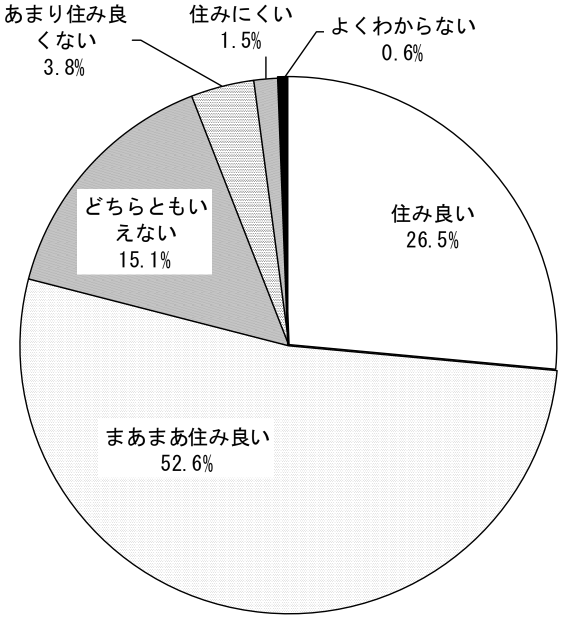
１ 市民が捉える「住むまち」としての横須賀

１　横須賀の住み良さ

○ 市民の約８割が横須賀は「住みよい」と感じている

現在、本市に住んでいる20歳代から40歳代に、横須賀の住み良さについて伺ったところ、「住み良い」（26.5％）「まあまあ住み良い」（52.6％）を合わせ、約８割（79.1％）が「住み良い」と感じています。（図表 25）

図表 25　横須賀の住み良さ（20歳代～40歳代市民）



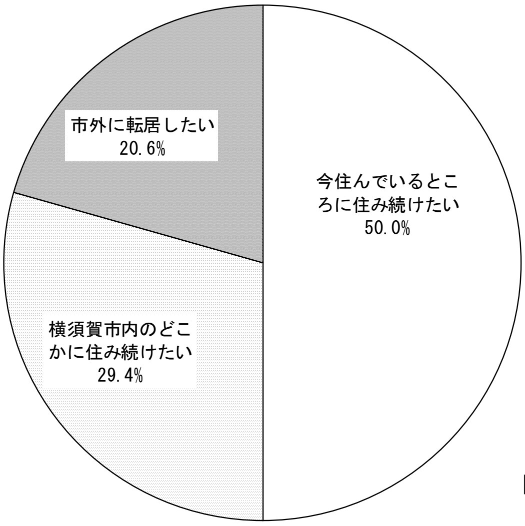
「総合計画市民アンケート」から作成
回答数：344件

２　横須賀への居住意向

○ 市民の約８割が横須賀に「住み続けたい」と感じている

今後も横須賀に住み続けたいかとの問いに対しては、「今住んでいるところに住み続けたい」（50.0%）「横須賀市内のどこかに住み続けたい」（29.4%）を合わせると、約８割（79.4%）が「横須賀に住み続けたい」と感じています。（図表26）

図表 26　横須賀への居住意向（20 歳代～40 歳代市民）



「総合計画市民アンケート」から作成
回答数：340 件

この８割という居住意向率は、近隣市の横浜市や三浦市よりもかなり高くなっています。

参考　他都市における市民の市内居住意向

調査期間	市名	居住意向
平成24年5月18日～6月4日	横浜市	62.5%
平成23年10月19日～11月1日	三浦市	53.3%

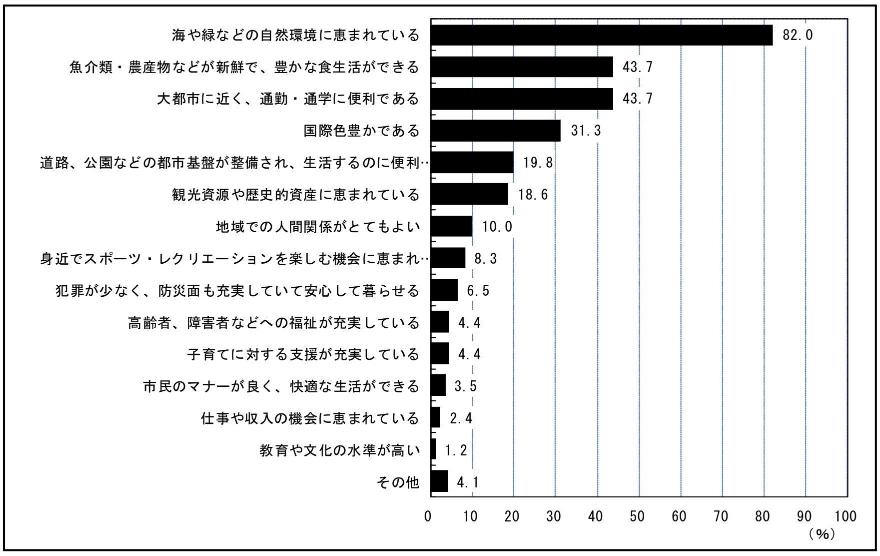
横浜市民意識調査（満 20 歳以上の市民）、
三浦市総合計画策定のための市民アンケート(16 歳以上の市民) から作成

３　横須賀の魅力

○ 市民は「自然」「豊かな食」「利便性」を横須賀の魅力と感じている

横須賀のどんなところに魅力を感じているかとの問いには、総合計画市民アンケートでは、「海や緑などの自然環境に恵まれている」（82.0%）が最も多く、次いで「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」（43.7%）、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」（43.7%）となっています。（図表 27）

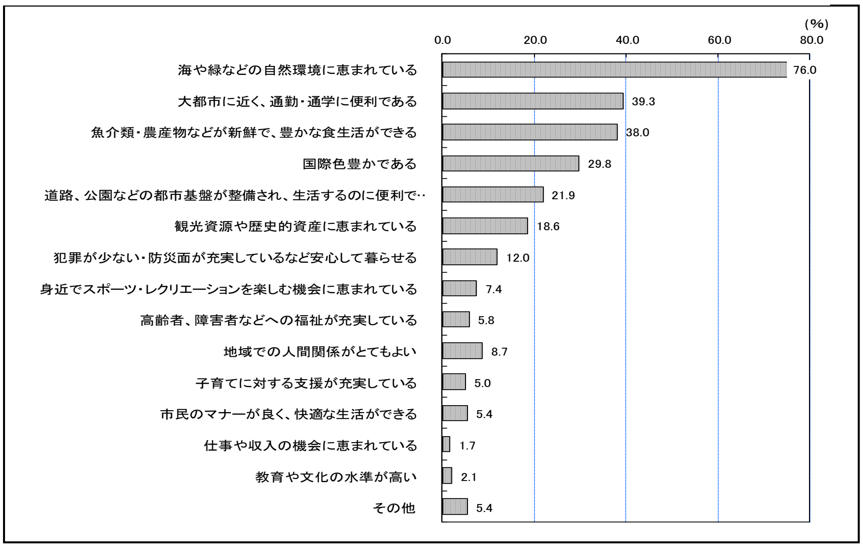
図表 27　横須賀の魅力（20 歳代～40 歳代市民）



「総合計画市民アンケート」から作成　回答数：339 件

また、市民を対象とした別のアンケート（基本計画重点プログラム市民アンケート）においても、「海や緑などの自然環境に恵まれている」（76.0%）が最も多く、次いで、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」（39.3%）、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」（38.0%）と、同様の結果が出ています。（図表 28）

図表 28　横須賀の魅力（20 歳代～40 歳代市民）



「基本計画重点プログラム市民アンケート」から作成　回答数：242 件

４　居住地としての横須賀の満足度

次に、ファーストマイホーム応援制度を利用して、実際に本市に住宅を購入した人からは、次のような回答が得られています。

○ 自然環境や不動産環境に関する満足度が高く、働く環境や子育て・教育環境などの満足度が低い

本市への居住後に、住まいや周辺の環境で満足している項目を調査したアンケートでは、「緑の多さ」「気候の良さ」などの自然環境や「住宅の広さや間取り」「住民の雰囲気」「住宅の価格」などの不動産環境に対する満足度が高くなっています。

一方、「就業機会（働く場所）の多さ」といった働く環境や、「デパートやショッピングモールの充実」といった買い物環境、「学童クラブの利用のしやすさ」「産前産後のケアや産院などの充実」などの子育て・教育環境に対する満足度は低くなっています。（図表 29）

図表 29　満足度

順位	項目	平均評価点
1	**住宅の広さや間取り**	**3.70**
2	**緑の多さ**	**3.63**
3	**住民の雰囲気**	**3.56**
4	**気候の良さ**	**3.56**
5	**住宅の価格**	**3.50**
6	親や親戚などの住居への近さ	3.50
7	通勤・通学のしやすさ	3.46
8	鉄道の使いやすさ	3.44
9	最寄り駅からの近さ	3.38
10	日用品を購入するスーパーマーケットなどの近さ	3.38
11	道路事情など、車の利用しやすさ	3.36
12	眺望の良さ	3.34
13	治安の良さ	3.33
14	公園などの遊び場	3.30
15	海への近さ	3.27
16	街の景観	3.24
17	学校施設や教育内容などの教育環境	3.20
18	地震や災害時の安全性	3.17
19	バスの使いやすさ	3.15
20	地場産食材の入手のしやすさ	3.13
21	医療機関（子ども向け以外）の利用のしやすさ	3.09
22	医療機関（子ども向け）の利用のしやすさ	3.05
23	小児医療費助成制度	3.02
24	物価の安さ	3.02
25	**スポーツやレジャーなどの趣味のしやすさ**	**2.82**
26	**学習塾などの学校以外の教育環境**	**2.81**
27	**保育園の利用しやすさ**	**2.67**
28	**介護サービスの充実**	**2.61**
29	**産前産後のケアや産院などの充実**	**2.55**
30	**学童クラブの利用のしやすさ**	**2.53**
31	**デパートやショッピングモールの充実**	**2.40**
32	**就業機会（働く場所）の多さ**	**2.35**

「ファーストマイホーム応援制度利用者アンケート」から作成
回答者数 2,480 件
平均評価点：現在感じている満足度を５（高い）～1（低い）の５段階で評価した平均の値（3 が平均）、未回答除く

なお、応援制度利用者に対するインタビューでは「横須賀の魅力的なところ」「不満なところ」として、次のようなことが挙げられています。

■横須賀の魅力的なところ

自然環境

・海や山などの自然環境が良い。
・自然に触れ合うことができ、子どもを育てる環境として良い。
・温暖で気候が良い。
・空気がきれいで、気候が良い。
・魚の種類が多くて価格も安く、とてもおいしい。頻繁に食卓に並ぶのがうれしい。

住宅および周辺環境

・不動産の価格が安い。二世帯での生活が可能である。
・東側と西側で全く異なるイメージがある。地域ごとに特色がありおもしろい。

日常生活の利便性

・都心へのアクセスが良く、不便を感じない。
・買い物も不自由なくできる。

子育て・教育環境

・子どもが伸び伸びと育つ環境にある。
・習い事などの教育環境が良い（都会に比べ混雑していない）。

■横須賀の不満なところ

住宅および周辺環境

・駅裏など夜の道が暗い（街灯が少ない）。
・横須賀中央駅周辺が寂れたと感じる。
・治安が不安。

日常生活の利便性

・坂や高台が多い割には、バスが少なく不便で将来に向けて不安に感じる。
・交通の便が悪い保育園が多い。

医療・福祉の環境

・大きな病院が少なく、診療所も診療受付時間が短く待ち時間が長い。
・出産できる病院などが少なく選択肢が少ない。

子育て・教育環境

・施設の階段などベビーカーでの移動が困難。
・乳幼児を対象とした店がない。
・小学生が体を動かして遊べる場が少ない（室内で遊べる施設・駐車場がある大きい公園）。
・子どもが楽しめて、親も買い物ができるような施設がない。
・児童図書館は駅前で立地も良いのに利用者が少なくもったいない。

働きやすさ

・共働きできる環境が整っていない（保育園・学童クラブ）。

２ プロモーションの専門家が捉える横須賀の魅力

本市では、平成 24 年に、市外に居住するメディア戦略やマーケティングの専門家などで構成する「横須賀リ・ブランディング研究会」を立ち上げ、「住むまち」としての横須賀の魅力を伝える効果的なプロモーションの方法について、研究を行いました。

１　横須賀の魅力

○ 横須賀の魅力は「豊かな自然」「温暖な気候」「新鮮な地場産の食」を都心に近く、交通の利便性の高い地域で享受できること

研究会では、市外に居住する専門家の目を通して「住むまち」としての横須賀の魅力について、市内の視察や、20 歳代から 40 歳代を対象としたアンケート結果、子育て中の方へのヒアリングなどを踏まえ、分析しています。

その結果、横須賀の魅力は、まさにそこで暮らす市民が感じている「豊かな自然」「温暖な気候」「新鮮な地場産の食」であり、また、それらを都心に近く、交通の利便性の高い地域で享受できることであり、「住むまち」として非常に魅力のある都市であると報告を受けました。

２　プロモーションの方向性

○ 市外に知られていない横須賀の魅力を積極的にＰＲする

一方、こうした「豊かな自然」「温暖な気候」「新鮮な地場産の食」といった魅力を交通の利便性の高い横須賀で享受できることが、市外の方にほとんど伝わっていないという指摘もされています。

今後、市外に住む結婚・子育て世代の定住促進を図っていくためには、日常生活の中で自然に感じる、こうした横須賀の魅力を前面に出すことで、「子どもが主役になれるまち」として、ＰＲしていくことが最も効果的であると報告されています。

３ 市外居住者が捉える「住むまち」としての横須賀

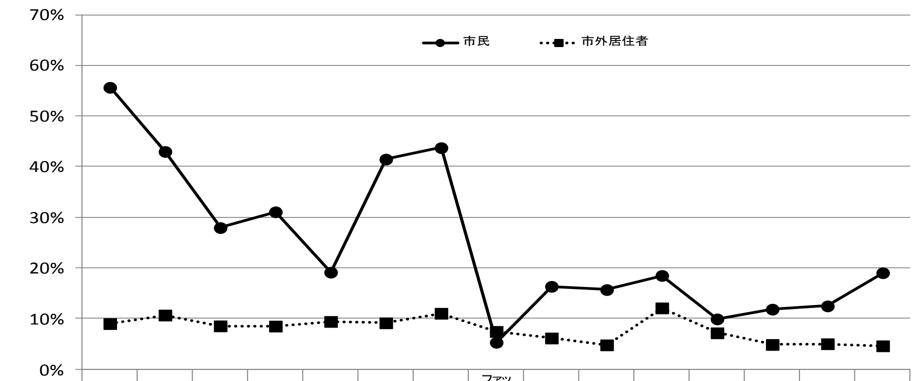
１　横須賀のイメージ

○ 市外居住者には「外国人と交流する機会がある」まちとしてのイメージが強い

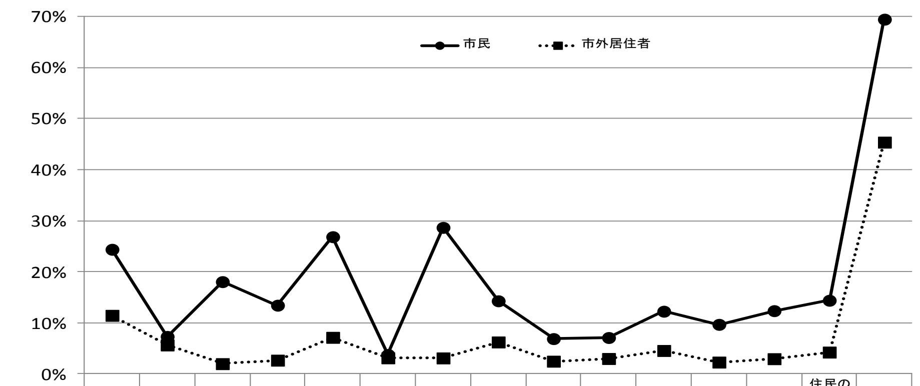
次に、20 歳代から 40 歳代を対象にしたアンケートによると、市外居住者には、横須賀は「外国人と交流する機会がある」というイメージが強く、他のイメージは低調です。

また、市民は「気候がよい」「自然環境がよい」「地場産の農水産物が食べられる」ということを横須賀のイメージとして捉えていますが、市外居住者にはあまりイメージされていません。（図表 30）

図表 30　横須賀のイメージ



	気候がよい	自然環境がよい	鉄道の利便性がよい	車での利便性がよい	生活インフラ(エネルギーや情報)が整っている	食品など日常的な買い物に便利	地場産の農水産物が食べられる	ファッション等おしゃれな買い物の為の店舗が充実している	公共施設が充実している	医療施設が充実している	飲食店が充実している	レジャー施設が充実している	スポーツ施設が充実している	文化施設が充実している	学校や図書館など教育環境が充実している
市民	55.6	43.0	27.9	31.0	19.1	41.5	43.7	5.3	16.3	15.7	18.5	9.9	11.8	12.5	19.0
市外居住者	9.0	10.7	8.5	8.5	9.4	9.1	11.0	7.4	6.1	4.8	12.1	7.1	4.8	5.0	4.6



	歴史・伝統のある	仕事が見つけやすい	治安がよい	災害リスクが低い	物価が安い	住民の所得水準が高い	安心して子育てができる	今後の発展性が感じられる	住民の教育レベルが高い	住民の文化レベルが高い	住民のスポーツレベルが高い	社会道徳に対する住民の意識が高い	住民によるボランティア活動が盛ん	住民の地域コミュニティへの参加意向が高い	外国人と交流する機会がある
市民	24.4	7.3	18.0	13.4	26.9	3.8	28.7	14.3	6.9	7.1	12.2	9.7	12.4	14.4	69.5
市外居住者	11.4	5.6	2.0	2.7	7.1	3.1	3.1	6.2	2.4	3.0	4.5	2.3	2.9	4.2	45.4

「横須賀への定住意向に関するアンケート」（横須賀市リ・ブランディング研究会）から作成
回答数： 18,727 人

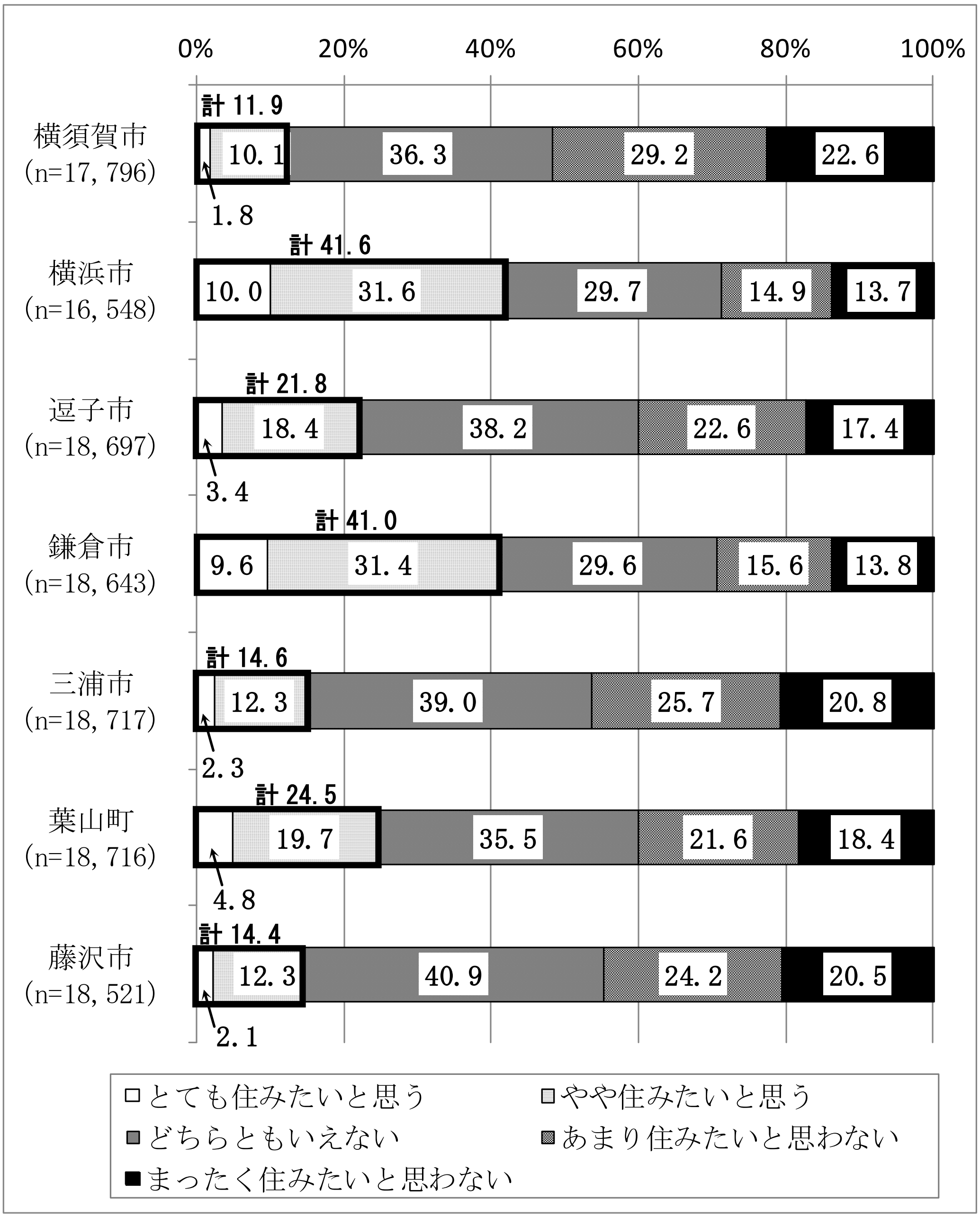
２　横須賀への居住意向

○ 市外居住者の横須賀への居住意向率は低い

市外居住者の横須賀への居住意向率（「とても住みたい」＋「やや住みたい」）は 11.9%で、横浜市（41.6%）、鎌倉市（41.0%）などと比べ、低くなっています。

また、三浦市（14.6%）や藤沢市（14.4%）への居住意向率よりもやや低い傾向にあります。（図表 31）

図表 31　居住意向率（横須賀市・近隣市町）



「横須賀への定住意向に関するアンケート」（横須賀市リ・ブランディング研究会）から作成
※各市に居住していない人（市外居住者）が対象

３　横須賀に居住しない理由

「横須賀への居住意向」（前ページの調査）で、本市への居住意向があると回答した人を対象に、本市に住んでいない理由を調査しました。

○ 横須賀に居住しないのは
「職場から遠い、通勤が不便」「遠いイメージ」だから

市外に居住している「横須賀に居住意向がある」人が、実際には横須賀に居住していない理由としては、「職場から遠い、通勤が不便」（42.5％）が最も多く、次いで「遠いイメージ」（6.5％）となっています。（図表 32）

図表 32　横須賀に居住していない理由

	理　　由	％
1	職場から遠い、通勤が不便	42.5
2	遠いイメージ	6.5
3	都心（東京）から遠い	6.0
4	今の居住地で満足	6.0
5	津波・災害が心配	5.0
6	実家から遠い	4.5
7	現在が持ち家・社宅だから	3.5
8	物価が高い	3.0
9	治安が悪い	3.0
10	基地がある	2.5
11	地縁・血縁が無い	2.5
12	不便そう	2.0
13	実家から近い	2.0
14	不動産を購入するタイミングではない	2.0
	その他	12.0
	特に理由なし	12.0

「横須賀への定住意向に関するアンケート」（横須賀市リ・ブランディング研究会）から作成
※横須賀市への居住意向がある市外居住者 200 人が自由回答（複数回答あり）